「日々の理科」（第 2635 号）　2021,-9,30

# 「一人一個のシャーレ（１）」

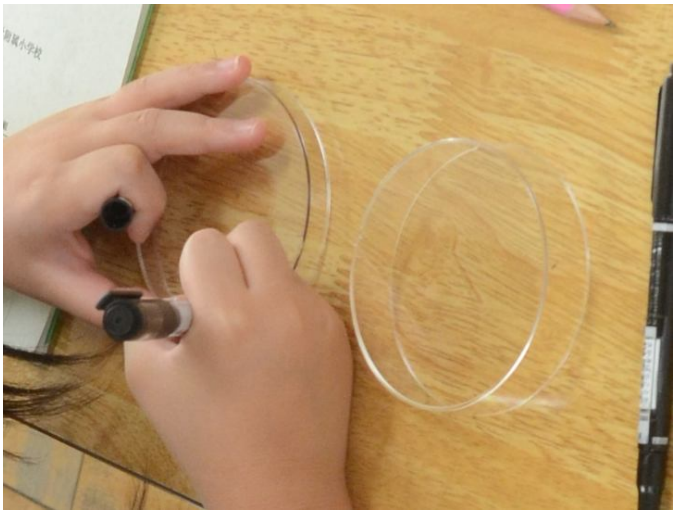
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

３年生の単元に「虫の観察」を扱うものがある。春だけでなく、秋にも観察させる機会がある。もちろん屋外に出て、「虫さがし」をさせるのだが、問題になるのが、「虫を入れる容器」である。安価で一人ひとりに渡せて、安定した供給ができるのが条件だ。

一つの方法として、R1（乳酸菌飲料）の容器が考えられる。これは愛飲している家庭が多く、保護者に呼びかけておけば、定期的に大量に手に入る。容量は 120mL と小さいので、テントウムシやダンゴムシの観察には適している。しかし、容器の口が小さいので、餌を与えたり、土や落ち葉の交換にはやや不便である。



そこでこの秋は、プラスチックの蓋付きシャーレを用意した。500 セット（!!）で 16,000 円程度で購入できた。1 個 30 円強で、何度も再利用できるので、一人一個の配布には適したものだろう。

３年生は、このシャーレを持って、さまざまな作物の収穫が終わった学校園（畑）で虫探しを始めた。ここは一見荒れているように見えるが、実は虫探しや野草探しには、非常に素晴らしい環境である。

このような環境にはダンゴムシは無数にいる。ちょっと土を掘ると、さまざまな大きさのダンゴムシが見つかる。虫の苦手な子どもも、ダンゴムシは比較的ハードルが低いようだ。

シャーレの良いところは、「土」「落ち葉」「小枝」などの「生育環境」もある程度整えてあげられることだろう。どの子も「土」は必ず入れていた。